

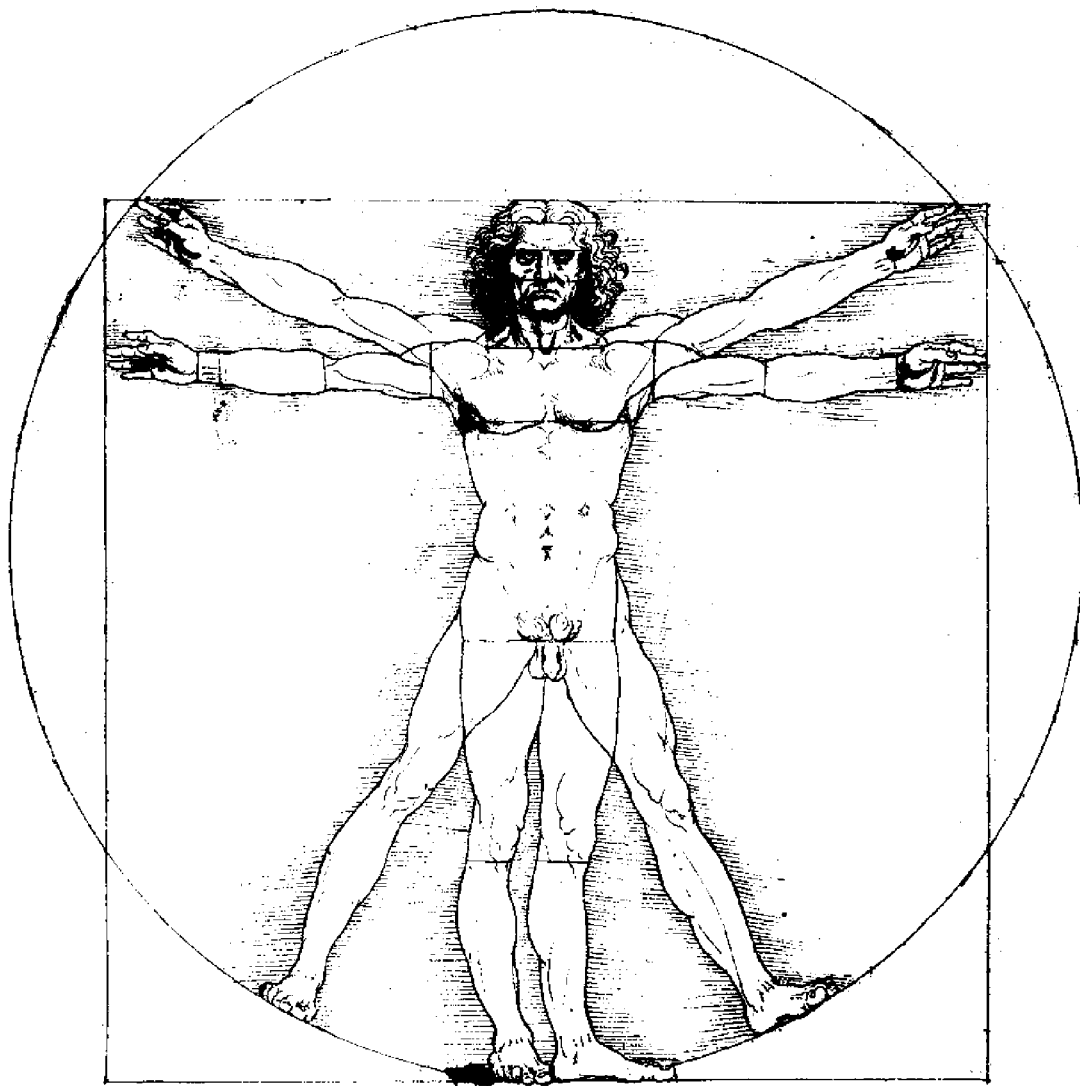
ISHIN

医心

隔月刊・無料配布

2025.7

No. 106



3年間で13人の新教授
新しい「風」が躍動

福井大学医学部附属病院 病院長

藤枝 重治

未来のシーズを探し
研究力を深化させる

金沢医科大学総合医学研究所 所長

横山 仁

内科と外科の“二刀流”
何でも相談できる地域のかかりつけ医

いりたに内科 院長

入谷 敦

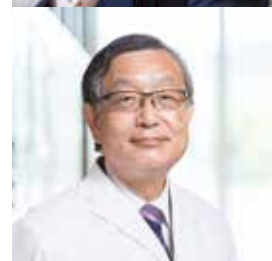
CONTENTS



04 3年間で13人の新教授 新しい「風」が躍動

福井大学医学部附属病院 病院長

藤枝 重治



12 未来のシーズを探し 研究力を深化させる

金沢医科大学総合医学研究所 所長

横山 仁



21 ファイネスの お聞かせください、ドクター！ DOCTOR'S VOICE

もとお耳鼻咽喉科クリニック 院長

元雄 良誠



22 内科と外科の“二刀流” 何でも相談できる地域のかかりつけ医

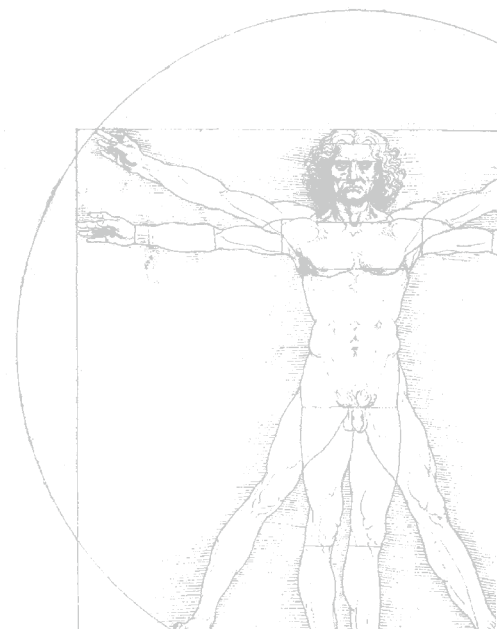
いりたに内科 院長

入谷 敦

STAFF

Editor 坂口俊克
Writer 上乗繁能／大廣 涼
Photographer 藤森祐治
Designer 吉田真人／西村恭子

発行／NPO法人 学産プロジェクト
〒920-0213
石川県金沢市大河南町東55番3号
TEL 076-203-6613
e-mail: info@project-ishin.net



「建物の主治医としての自覚」 —これが、みづほのこだわりです。

けやきクリニック整形外科様



外観



多目的室



第2リハビリ室

四季歯科医院様



外観



受付・待合室



診察室

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に 医業経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での提案営業スタイルを確立し、病医院や福祉施設の開業を支援しています。これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、土地探し、施設提案、事業運営までを専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。多くのドクターが抱かれている開業についての不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと進んでいただけるお手伝いができればと考えております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和7年8月23日(土)・24日(日)
10:00～17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。

木造建築の新しい選択肢、「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合梁「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

新しい建設サービス業の展開
mizuho みづほ工業株式会社

本社／〒921-8064 金沢市八日市丁1362番地 TEL. 076-240-7010(代) ホームページ／<https://www.mizuho-co.com>

建築コストの削減
高い耐震性と耐久性
設計自由度の高さ

建築工期の短縮
建物の軽量化
大空間の木造建築

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

医療施設

クリニック

ドクター

薬剤師

看護師

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

栄養士

介護士

ソーシャルワーカー

ケアマネジャー

民生委員

地域の方々

在宅高齢者施設

民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータ・センター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL (076) 268-8315 (代) FAX (076) 268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町ハ6番地1
TEL (076) 268-8311 (大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■支社 / 東京・名古屋
■支店 / 大阪
■営業所 / 富山・福井



UNIVERSITY OF HOSPITAL FUKUI # 藤枝重治

3年間で13人の新教授
新しい「風」が躍動

判断力とスピード感

― 病院長に就任される直前まで医学部長をされていました。附属病院を統括する立場に変わられて、意識や心境などにどのような違いがありますか？

医学部長時代は、どちらかといえばいかに学生が育っているか、教員や研究者が論文をたくさん書いて、研究費が多く調達できているかといったところに重点を置いていました。その結果は、医師国家試験の合格率にも関係してきます。昨年度（2024年）の合格率は幸いにも100%で全国1位でした。要するに1年の成果、もしくは6年経つてみてどうか、評価の対象になります。対して病院長になると、当然のことですが、病院全体のことを考え、起きているさまざまな問題に対してどういう手を打てばいいか、打たなければどうなるかが問われます。経営判断のスピードも全然違います。たとえば毎月の収支があつという間に出てきます。今月、来月の収支をどうすればいいか、非常に短期間ではつきりとわかります。結果が数値として現れるので、気がぬけないですね。

― 素早い対応や判断力など、スピード感が求められるわけですね？

そう思います。とりわけ病院の収益にかかわる問題は避けては通れません。医学部長の時に今年は1月、2月、3月は病棟が混んでいて、新規の入院患者さんを受け入れたくても受け入れられないという話を耳にしました。私は、教授（耳鼻咽喉科）になった時に、「患者さんではできるだけ断らないようにしよう」と自らに言い聞かせ、地域の病院や開業医さんからご紹介いただいた患者さんを断ることなく、受け入れてきました。

それから20数年経ちますが、耳鼻咽喉科では、いまではがんなどの難しい疾患の患者さんは大学病院へという流れになっています。そういうこともあって、私が病院長になった時に、改めてその思いを各教授の先生方に伝え、お願いをしました。

「大学病院は高度急性期病院で本来、難しい疾患を扱う病院ですが、ご紹介をいただいた患者さんは、いろいろご都合はあると思いますが、断らないで欲しい」と。

現場の医師や看護師は、院内の調整



や入院患者さん、ご家族に普段から事情を伝えていっていると思います。ただ、どこまで浸透しているかまではなかなかわかりません。入院にあたって「この疾患は大体1週間から10日くらいです」とお話をし、長引く場合は外部の病院に行っていたるように調整する。そのように患者さんやご家族にお約束をし、ご理解と納得をいただく。これを徹底することで、かなり改善はされるのではないかと思います。

ロボット麻酔システムを開発

「当然、地域の病院や開業医さんとの連携がきちんとできていることが前提ですね？」

もちろんです。日頃から信頼関係がしっかりできていないと、急な要請があってもなかなかうまく対応できるものではないですね。病院長に就任して、私が思ったことの一つは、地域との連携、関係をより「密」にすることでした。地域の先生方と、普段から「顔の見える関係」を構築しておくことが大切だと思ったのです。

関連病院や地域の病院、医師会、クリニックなど、県内の主だった病院の

先生方とはほとんど顔見知りですし、医学部長のときには学生の指導などをお願いした病院もあります。「急な患者さんがあったときはまたお願いします」と気軽に声を掛け合い、普段から親交や関係を深めておくことで、いざというとき、困ったときに相談しやすいのです。

結果として、大学病院から「患者さんを引き受けて欲しい」と急な依頼をしても受けていただけますし、スムーズに回るようになってきています。大学病院といえども、いまや地域との密な関係なくして生き残っていくのは難しい時代です。

私は鯖江市の出身で、福井大学医学部（旧・福井医科大学）の第一期生でもあります。地元への思いは人並み以上だと自負しています。地域の皆さんの命と健康を守るために、精一杯役割を果たしたい。地域の先生方のいろいろなニーズやご意見は全て受け入れるつもりで、これからも関係づくりに力を尽くしたいと思っています。

「断らない医療を実践するにあたって、どのようなことから優先的に取り組まれたのですか？」

手術件数を増やしました。大学病院である以上、高度な手術を数多く実践していくことは使命だと思っています。その一環として、イブニング手術枠を設けました。今年の4月から、夕方4時以降夜8時までに終わる手術を週2回、行うようにしています。

手術を増やすにあたっては、麻酔科医の存在が重要になります。麻酔科医が不足していたこともあってこれまでなかなか実現できなかったのですが、当院では麻酔科の教授に協力いただき「ロボット麻酔システム」を開発し、それがうまく稼働しはじめています。

ロボット麻酔システムは、全身麻酔で手術を受ける患者さんへの麻酔投与を自動調節するシステムで、2017年からほぼ8年がかりで開発したものです。近い将来、ロボット麻酔システムの導入により、手術を受ける患者さんの待機時間の短縮や、研修医が手術に参加する際の安全性確保などの課題の解消が期待されます。

イブニング手術枠は、目下のところ泌尿器科と産婦人科、耳鼻咽喉科など限られた診療科で行っています。働き方改革との関係もあって、担当医は午後から出てきて、手術を終えると翌日は休むというように、シフト制にして

います。

そのほか、脊椎・脊髄外科領域で、手術室にコンピュータ・ナビゲーションシステムや術中脊椎モニタリングを導入しました。脊椎の手術中に、ピンなどを埋め込む際にCT画像などが術中にモニタリングできるシステムで、より正確で安全な手術ができるようになりました。脳や神経系の手術においても、機能を温存できる神経系の手術が進んでいて、ロボット手術含めて今後、当院の得意分野にしていきたいと思っています。

内科を「臓器別」で再編成

「少子化高齢化や人口減少が急速に進み、国の地域医療構想による病院の統廃合や機能分化なども取り沙汰されています。医療のあり方が変わりつつあるなかで、どのような役割を果たしていくとお考えですか？」

病院の統廃合や機能分化については、遅かれ早かれそういう方向に向かわざるを得ないと思います。ただ現状は、大学病院として「やれることは全て取り組む」方針でさまざまな改革を進めています。

医療的には、県内唯一の特定機能病院であり、高度医療の最後の砦として役割を果たすべく組織や体制を見直しました。たとえば、高度急性期病院として臓器・疾患機能別病棟センターを継続し、診療科の枠を超えた集学的診療体制を強化しました。

それから福井県脳卒中・心臓病等総合支援センターの設置、がんゲノム医療連携病院、小児がん連携拠点病院、福井県アレルギー疾患医療拠点病院、福井県摂食障害支援拠点病院のそれぞれ指定を受けており、その強みを生かしていきたいと考えています。

少子化対策につながればとの思いから、高度生殖医療センターを設置し、不妊手術や不妊治療にも積極的に取り組んでいます。

一方で、医療の効率化のためのDX化や、医師や看護師の働き方改革、診療報酬を上げるためのDPCへの取り組みも進めています。

―診療科の中で、内科を第一、第二、第三といったナンバー内科から臓器別に再編成されたとお聞きしています。なぜ再編成されたのですか？

いまさら臓器別？と思われる人もい

るかもしれません。背景には、若い人を育てていこうという医学部の方針があります。それに伴い、私が医学部長だった頃を含めて、ここ3年間で臨床系の教授が13人変わります。

これまで第一内科は血液・腫瘍と感染症・膠原病、第二内科は脳神経と消化器、第三内科は呼吸器と内分泌・代謝というように、2つぐらいの臓器や診療科を取り込んできました。一緒になることで一定の役割やメリットはありますが、40年近く経過して診療科によつてはなかなか人が集まりにくい面もありました。それで当時の学長とも相談し、ナンバー内科を臓器別に戻して新しい教授を募集しようと思

い切つて舵を切ったのです。いま、その成果が出てきていると改めて感じています。先生方が頑張られて、初期研修医として学生を勧誘するために働きかけるとか、実際に医局の門を叩く若い人たちも増えてきています。体制が変わったことで、新しい風が吹いている。そういう実感があります。

「医工連携」で未来を切り開く

―今後、どのようなビジョンを描いておられるのか、最後にお聞かせください。

やはり若い人を育てることだと思っています。医療業界も高齢化が進んでいます。大学病院といえども教授だけではなく、准教授や医員を含めて年齢が上がってきています。次の時代を担う若い人が育っていかないと、新たなものは生まれてきません。

少なくともいま30代、40代の先生方には、これからの大学病院を支えていてほしい。そのために若い人たちの活躍を、いろんな角度からサポートしたいと思っています。

当院には「アンダーフォーティクラブ」という組織があります。各診療科にいる40歳未満で、診療医もしくは大学院を卒業し、専門の研究に熱心な先生方が集まってできた組織です。その40歳未満の先生方がいま20代、30代の若い先生方の相談に乗ったり、研究サポートなどをしています。

そうした活動に対して、病院から研究費の一部を補助するなどの支援をします。30代の先生が、たとえばロボット手術の技術を身につけるために先輩の先生方に教えていただきながら、仕事の幅を広げる。あるいはその技術を身につけるために研修に行くことがあるかもしれません。そういう費用の一部をサポートできればと思っています。

最近、研究費や寄附講座など外部からの資金調達が難しくなってきました。診療報酬のアップもなかなか見込めない中で、活動資金をいかに調達するかも重要です。

研究のシーズを発見して、論文をたくさん書いて、新しいものが生まれれば、企業の目にも止まりやすくなります。そこから「医工連携」が生まれ、製品につながれば資金が投入される可能性も広がります。当院の自動麻酔システムは、まさにその典型です。

医師主導による治験、心臓や血圧の健康な状態を保つ機器、快適な眠りをサポートする研究など、どんなものでもいい。独自の研究データを重ねながら、メーカーとコネクションをつくって新しい製品につなげる。そうした若い人たちの活躍の場を広げる機会を、できるだけ多くつってあげたいと思っています。

Profile

藤枝 重治 (ふじえだ しげはる)
福井大学医学部附属病院 病院長

【略歴】

1986年 福井医科大学医学部医学科卒
1990年 福井医科大学大学院医学研究科博士課程修了
1990年 国立鯖江病院厚生技官耳鼻咽喉科医師
1991年 福井医科大学医学部文部教官助手転任
1993年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA) 臨床免疫アレルギー科に文部省長期在外研究員として滞在
1996年 福井医科大学医学部附属病院 講師
2002年 福井医科大学医学部耳鼻咽喉科学講座 教授
2003年 福井大学医学部 感覚運動医学講座耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授
2010年 福井大学医学部附属病院 副病院長(2019年まで)
2021年 福井大学医学部系部門長 医学部長
2025年 福井大学医学部附属病院 病院長

購入から15年以内で このような 医療機器 はございませんか？

日本で使用されなくなった内視鏡・エコー・CR読取り装置・眼科機器・CT/MRI装置は、
多くの発展途上国で必要とされています。



弊社が買取りいたします。
各社リース更新・満了・返却機器もご相談ください。

らくらく買取



QRコードを
読み込んでください

株式会社アメニティ
 **0120-859-957**

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

営業所

旭川・札幌・帯広・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・郡山・高崎・水戸・
千葉・さいたま・横浜・新潟・長野・富山・金沢・静岡・浜松・名古屋・
新大阪・京都・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島

<https://www.amenity-ss.co.jp/>

「アメニティセット」および「アメニティサポートシステム」は株式会社アメニティの登録商標です。



アメニティ
レンタルの
ご案内

24時間ご利用可能なので安心
清潔な院内・施設内環境を保てます (院内感染の防止)
看護・介護職員さま、事務職員さまの業務軽減 (人員不足の解消など)
患者さまと来院された方とを区別できます (防犯上の管理)
緊急入院や災害時にも利用可能です



入院も退院も、 手間いらず。

安心しておまかせいただける理由

1,403施設 約20万床の採用実績

Pマーク取得という信頼性

ISO取得という信用性

導入事例の見学も可能

アフターサポートも万全

HITOSHI YOKOYAMA



横山 仁

Director of Medical Research Institute

未来のシーズを探し 研究力を深化させる

研究力を支える重要拠点

— 金沢医科大学総合医学研究所は「良医を育てる」という建学の精神を具現化する重要な研究拠点だとお聞きしています。成り立ちや位置づけからまずお聞かせください。

金沢医科大学の高度な教育、研究や診療を進めるには、土台となる「研究力」が必要です。複雑な生命現象や病態解明、未解決な難病の改善、克服につながるシーズは、日々の研究の積み重ねから生まれるものです。研究力を高めることは、課題解決に挑む情熱、粘り強い探究心をもった医療人の育成や、奥行きのある医学教育にもつながる大切な要素でもあります。総合医学研究所は、そうした研究力の要ともいえる役割を担っています。

総合医学研究所は、1973年5月に設置された共同研究室が始まりです。もともと研究者の効率的な研究の推進と向上をめざして、研究用大型機器を集中的に管理、運営するために整備されました。1989年4月に、既設の共同研究室や当時の熱帯医学研究所、人類遺伝学研究所など7つの部門が統合された総合医学研究所となり、その後、5部門編成など

を経て2011年6月に、現在の組織になっています。

組織体制と研究分野は、2つの研究領域と2つのセンターから構成されています。独創性があり、臨床に直結する研究を進める「生命科学研究領域」と「先端医療研究領域」、それに国の研究助成事業や寄附研究部を含む「プロジェクト研究センター」、研究施設・機器運用の「共同利用センター」です。この4つが柱となり、独自の研究を進めています。

— 具体的なミッションや役割としては、どのようなことがありますか？

総合医学研究所のミッションは、大きく5つあります。(1) 研究 (2) 研究支援 (3) 教育・診療 (4) 地域社会への還元・貢献、産学連携 (5) 受託事業です。メインは研究で、各所員はそれぞれの研究テーマをもとに、基礎と臨床が一体化して様々な研究を前に進めています。

基本的には、基礎と連携しながら臨床に直結するシーズを発見、発掘し、マッチングや橋渡しの研究、研究支援などを行っています。所員は、総合医学研究所の研究員であるとともに、たとえば大学院や臨床とつながっていれば、それぞ

れの所属や肩書きがつきます。

一例を挙げれば、石垣靖人副所長は、大学病院の再生医療センターとタイアップして研究や研究支援などを行います。また新井田要副所長は、ゲノム医療センターを病院で立ち上げ、臨床と一体化した研究を進めています。

自身も、金沢医科大学医学部・腎臓内科学の嘱託教授、金沢医科大学病院腎臓内科の医師、研究推進センターのセンター長、そして総合医学研究所の所長です。つまり大学の講座教育、大学病院の医師、研究推進センター、研究所の4つの肩書きを持っています。

産学連携で実用化をめざす

―2研究領域、2センターは、それぞれどんな役割を担っているのですか？

「生命科学研究領域」は、分子腫瘍、細胞医学、ゲノム損傷応答、遺伝子機能、蛋白質制御、トランスレシヨナルリサーチの6分野で、将来的に医療現場につながるような基礎研究を行っています。

「先端医療研究領域」は、バイオ・デジタル応用、糖化制御、ゲノム疾患、腫瘍制御、iPS細胞応用医学の5分野で、臨床とのつながりを密にしながら先

総合医学研究所は、基礎を含めてシーズを発見し、研究を深める役割を負うのに対し、研究推進センターは、研究を実装化または実用化するための産学連携や、外部の研究資金を調達するためのノウハウをサポートする役割などを担います。それぞれの業務を補いながら、研究活動や産学連携、受託事業などを行う体制になっています。

産学連携については、基本的に創業に向けた基礎研究、臨床研究、医薬品等の臨床評価、新たな医療機器の開発や可能性の検討、治療への応用研究などを産業界と連携して実施しています。その中で、令和6年度は新規共同研究が11件、新規特許出願が15件あります。

スタートアップ創出に向けた支援にも取り組んでおり、現在2件の認定ベンチャーが動いています。最近の事例では、令和6年度から開始された、大学発新産業創出基金スタートアップ・エコシステム共創支援(TeSH:Tech Startup HOKURIKU)において、GAPファンドのステップ1に3件採択されました。

一つ目は、解剖学Iの八田稔久教授による「生物標本透明化キットの事業化検証」、二つ目は、当研究所の島崎猛夫准教授による「細胞技術と生体模倣システ



端的な医療の展開をめざします。

それらの研究を、世界レベルで推進する役割を担うのが「プロジェクト研究センター」です。2011年に設立され、臨床と直結した先端プロジェクト研究や産学共同研究を、文部科学省や厚生労働省、総務省などの公的研究補助金による事業、企業からの寄附事業などに基づいて行います。研究テーマも比較的柔軟で、自由度の高いものを扱っています。

「共同利用センター」は、動物管理室、放射線安全管理室、機器管理室、病理組織室、臨床研究支援室、バイオバンク室、オープンラボから構成され、学内外への研究支援を行います。たとえば新しくできた講座で、実験室がまだない教員に対して「共同利用センター」の実験室の共同利用を促し、受託試験や動物飼育の管理など、研究や実験に関する諸々をサポートしています。

―臨床と直結したプロジェクトや、産学連携による共同研究などで具体的に進んでいるものはありますか？

金沢医科大学には、産学連携の窓口になっている研究推進センターがあります。研究推進センターと総合医学研究所は、まさに車の両輪ともいえる関係です。

金沢医科大学には、産学連携の窓口になっている研究推進センターがあります。研究推進センターと総合医学研究所は、まさに車の両輪ともいえる関係です。

次世代医療のシーズ

―実用化に向けて進んでいる事例としては、どんなものがあるのでしょうか？

島崎准教授、西園准教授の研究は、知財や特許がとれていて、企業側がコマースハルベースに乗せられる製品として利用されます。中身については、たとえば西園准教授の研究は、光照射により精子を活性化し受精率を上げる技術で、国内に限らず、海外でも畜産分野における実用化が期待されています。

ほかにも、先端医療研究領域のバイオ・デジタル応用では、次世代医療基盤法による電子カルテを含めた膨大なデータを利活用できるシステムに関わっていますし、ゲノム損傷応答や遺伝子機能になると、遺伝子変異や染色体異常の診断、ゲノムシステム異常の人体への影響など、関係している病院やプロジェクトをそれ



DOCTOR'S INSIGHTS

Profile

横山 仁 (よこやま ひとし)

金沢医科大学総合医学研究所 所長

【略歴】	
1980年	金沢大学 医学部医学科 卒業
1984年	金沢大学 大学院医学研究科 修了
1987年	金沢大学医学部附属病院助手
1992年	金沢大学医学部講師
1992年	米国ハーバード大学医学部講師
1994年	金沢大学医学部附属病院助教授
2004年	金沢大学医学部附属病院腎臓内科科長
2006年	金沢医科大学腎機能治療学(腎臓内科学)教授
2008年	金沢医科大学病院副院長(総務・教育担当)
2013年	金沢医科大学医学部長
2017年	金沢医科大学病院副院長・診療部長
2019年	金沢医科大学総合医学研究所長(現在に至る)
2022年	金沢医科大学研究推進センター長(現在に至る)

それぞれの所員が支えています。

研究の中には特許が取れていないものもあって、現段階ではすべてをオープンにはできませんが、実用化という意味では、たとえば病態の解明やそれに合わせた薬剤のスクリーニングにも役立てることも可能です。

再生医療のためのiPS／幹細胞研究の分野では、自由診療ですが、すでに脂肪幹細胞を使った変形性膝関節症の治療なども実践しています。

2024年8月にメディカルリサーチセンター(MRC)が完成しました。MRCができたことで今後、研究や研究に関わる様々な活動がどのように進化していくとお考えですか？

MRCは、基礎研究や臨床の橋渡しをする研究に加え、実験動物を用いた最先端の研究を推進することを目的として、金沢医科大学創立50周年記念事業の一環として建設されました。医学や看護学を学ぶ学生や、基礎や臨床研究を行う教職員が安全で、安心して研究できるような環境が保たれています。

主な特徴として、第一に動物実験を行う施設の集約、効率の良い環境管理システムが導入されています。第二に、最新

の感染対策による人と動物の両方にとって安全で、優しいクリーンな飼育・実験環境を実現しています。そして第三に、

ゲノム編集などを用いた、遺伝子改変動物などの飼育スペースを拡充した最先端の研究ができるようになっていきます。とくに実験動物の飼育環境については、

温度・湿度を常時監視できるシステムを導入した高度な飼育管理体制を敷いています。具体的には、病原微生物の感染を防ぐSPF飼育エリアを設置し、動物から人への感染で生じる人獣共通感染症が発生しないように、個別換気ケージシステムを全面採用しました。

高精度な動物飼育管理

研究を進めるうえで、より高度な飼育管理体制がなぜ重要なのでしょう？

医学研究で最も多く用いられる動物は、マウスやラット、ウサギなどの小動物です。それらの実験動物が、仮に病原性微生物に感染してしまうと、健康が損なわれ、実験結果やデータが無駄になり、研究そのものがストップしてしまいかねません。

高精度で再現性の高い実験データを得るためには、動物を健康で、高品質なま

ま飼育維持することが重要です。これまでも実験動物の飼育環境について配慮は

されていましたが、一箇所に集約し、一元管理できる体制には必ずしもなっていないませんでした。このような状況を踏まえ、最新かつ高度な飼育管理体制をMRC内に構築しました。

今後はヒトのモデルとなりうる小型実験動物の飼育が可能になると同時に、がん、感染症、生活習慣病などの研究がさらに進み、臨床への橋渡し研究が加速すると思います。ゲノム編集による遺伝子改変動物を生み出すことも可能で、国内外の研究機関への実験動物の提供や、産学官、医工連携などの共同研究もさらに進展すると考えます。

最後に、総合医学研究所の今後の目指す方向性やビジョンについてお聞かせください。

医学は年々進歩しています。遺伝子・ゲノム機能の解明や、iPS細胞を使った再生医療の進歩など未来につながる医療もどんどん出てきています。しかし、いまだに原因不明で治療法が見つからない疾患も数多くあります。その中には、同じような疾患だからと思っただけで治療をしても、なかなか治らない症例も

たくさんあります。

たとえば、私は腎臓病が専門で、主にネフローゼ症候群、糸球体腎炎を中心に診療と臨床病理学的研究をしてきました。その間に、世界で200数十例しか見つからない病気を、北陸だけで40例以上発見しています。同じような腎臓病でも、病因を特定し、成り立ちやメカニズムを解明することで、たとえば遺伝型か、抗体型か選別できるようになっています。それによって治療の選択肢が広がり、改善の道が開けるようになっていきます。

同様に、他の疾患でも私たちが追究すべきシーズはまだ無限にあります。求められる内容も、基礎的な研究だけではなく、未来につながるテーマの選定や、臨床とのマッチング、橋渡し、産学連携など多種多様な領域へと広がっています。

総合医学研究所は、数年後、最先端の医療や時代に即した研究環境に改変、整備することが検討されています。金沢医科大学の教育、研究、診療を支える要として、そうした未来を見据えつつ、研究力をさらに深化させていきたいと考えています。



ドラッグストア併設で 理想の開業を！

DCPソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
開業までのスケジュール作成
開業地の選定、診療圏分析
事業計画の策定
融資の打診及び交渉
設計、内装業者紹介及びアドバイス
医療機器選定
税理士、公認会計士の紹介
広告相談
従業員募集、採用、教育の補助
開設手続き
開業後の経営支援、拡大展開
継承支援



DCPソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

拠点

- 関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号
ヒルトップ神田ビル
- 中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
- 関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号
新大阪第5ドイビル13階
- 北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

福井県坂井市春江町

もとお耳鼻咽喉科クリニック

耳鼻咽喉科・小児耳鼻科



元雄 良誠 院長

【略歴】

2017年 金沢大学医薬保健学域医学類卒業
2017年 初期臨床研修医
2019年 金沢大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科入局
2020年 福井県済生会病院
2021年 金沢大学附属病院
2024年 福井県立病院
2025年 もとお耳鼻咽喉科クリニック 開業

真摯に向き合う時間を大切に
幅広い世代に寄り添う医療を



春江町に5月開業
耳・鼻・のどの悩みに応える

もとお耳鼻咽喉科クリニックは、坂井市春江町で5月にスタートしたばかりのクリニックだ。金沢市出身の元雄良誠院長が、この地で開業を決めた一番の理由は地域ニーズに応えるためだった。「春江町は長年、耳鼻咽喉科の空白地でした。妻が福井出身で、私も福井県内の病院で研鑽を積んだこともあって、医師としての新たな一歩をここで踏み出すことにしました」。元雄院長はこう話し、耳・鼻・のどを中心に、乳児からお年寄りまで幅広い世代の健康づくりを支えている。

クリニックの特色の一つが、迅速なアレルギー検査だ。ドロップスクリーンを採用し、わずか30分で花粉や食べ物、動物などのアレルゲン41項目を調べることができる。その日のうちに検査結果が分かり、いち早く適切な治療を開始できるのがメリットだ。加えて、検査に必要な採血の仕方も注射ではなく、指先にスタンプを押すだけ。痛みはほとんどなく、小さなお子さんでも検査しやすい。

また、毎週月曜午後には補聴器外来を開いている。「メガネと違い、

健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医薬経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
TEL:076-239-0625
E-mail: solution@jp-finese.com



[本社／金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所

かかわるみんなが
笑顔になれるように

笑顔になれるように

待合スペースをのぞいてみると、小さな子どもが集まっている一角がある。そこにあるのは、世界的に活躍するアート集団「チームラボ」が手がけた「こびとが住まう黒板」。線を描いたり、タッチしたりすることで黒板の中の世界が変化していくもので、みんな夢中になっている。

「クリニックを笑顔になれる場所にしたいんです。患者さんはもちろん、スタッフも、取引先の方々も、かわる人が笑って過ごせる場所

を目指しています」。そんな未来を思い描く元雄院長が、診療の際に大切にしているのが「対話の時間」だ。電子カルテの時代になって久しいが、診察する際はパソコンに触ることなく、患者さんと真摯に向き合い、表情や話し方などからも治療の糸口がないかを探っているという。

元雄院長は、数ミリ単位の繊細な手技が求められるものから首を切開するダイナミックな手術まで幅広く手がけるなど、耳鼻咽喉科の医師として大学病院や基幹病院で腕を磨いてきた。「勤務医だった1年前と状況は大きく変わり、クリニックのマネジメントや経理などに四苦八苦しています」と頭をかく元雄院長。最前線で磨いてきた知識と技術を、地域医療に結び付けていく新たな挑戦は始まったところだ。





在宅診療にも注力

「充実度は180%」

「いりたに内科」かかりつけクリニック（金沢市上安原）の入谷院長の表情は、充足感に満ちあふれていた。クリニックのホームページを拝見すると、目に飛び込んでくるキャッチフレーズは、「何でも相談できる、地域のかかりつけ医」。その言葉通り、クリニックには近隣に暮らす幅広い世代の人たちが足を

内科と外科の“二刀流” 何でも相談できる 地域のかかりつけ医

運んでおり、風邪や体調不良をはじめ、さまざまな健康の悩みに応えている。なかでも、高血圧や糖尿病、高脂血症、痛風、動脈硬化の診療に力を注ぎ、認知症や心臓病、睡眠時無呼吸症候群などの予防・改善にも高い実績を誇る。

近年は在宅診療にも情熱を傾けている。同クリニックの事務長で、社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などの資格を持つ濱大輔さんや、連携する訪問看護師とともに、一人暮らしの高齢者宅など通院の難しい患者さんのもとを訪れている。ちよつとした時間を見つけて出かけることも少なくなき、「今日も昼の休憩時間に3軒回ってきた」と入谷院長は笑う。

ホームページを通した情報発信にも積極的で、2024年1月からは、医療にかかわる身近なことをテーマに、1日も休まずにブログを更新している。「休診日などに数日分を書き溜めておくんです」（入谷院長）というものの、ネタ探しやデータ調べ、文章制作と、続けていくのはなかなか大変なはず。並行して、クリニックのトップとして、スタッフのマネジメントや経営に神経を行き届かせることも重要だ。忙しく日常は過ぎていくことだろう。「疲れてはいませんか」と尋ねてみると、「いえ

Profile

入谷 敦（いりたに おさむ）

いりたに内科 院長

【略歴】

1996年 北海道旭川北高校英語科卒業
2002年 金沢医科大学卒業
2002年 旭川医科大学第一外科研修医
2003年 北海道がんセンター 国立札幌 心臓血管外科
2004年 市立根室病院 外科・心臓血管外科
2005年 旭川医科大学附属病院 第一外科
新日鐵室蘭総合病院 心臓血管外科
2007年 国立循環器病センター 心臓血管外科
2010年 金沢医科大学 高齢医学科
2023年 いりたに内科開業



HUMAN POWER

Osamu Iritani

いりたに内科 院長 **入谷 敦**
かかりつけクリニック

いえ、そんなことはありません」との答えが返ってきた。

「やらされているわけではなく、自分がしたくてしているわけですから。それに、マネジメントなどは事務長がカバーしてくれていますし、看護師や医療事務のスタッフも、よくついてきてくれています。本当に感謝です。人にも恵まれ、充実度は180%ですよ」と、柔和な笑顔を浮かべる入谷院長。開業して2年、かかりつけ医として地域に根を張り、住民と向き合う日々、やりがいと大きな手応えを感じているようだ。

国内有数の医療機関で 外科医として腕を磨く

金沢でかかりつけ医として歩んでいく……。まさに天職と思える道をひたむきに進む入谷院長だが、最初から地域医療と向き合う日々を志したわけではなかった。そもそも出身は北海道のほぼ中央部に位置し、旭川市に近い愛別町。牧場を営む家で生まれ育ち、「医師になりたい」と考えたのは高校2年生のときだった。きっかけは、ある小説だったという。

「1968年、札幌医科大学で日本初

HUMAN POWER

Osamu Iritani

術にも立ち会った。いま振り返っても、

「濃密な経験は、若き外科医にとってかけがえない財産となった。一方で、医師としての新たな「欲」が芽生えたのも事実だ。

『もっと患者さんと向き合いたい』という思いが高まっていったんです。心臓血管外科医が、患者さんと接するのは手術のときがほとんど。どんな人なのか、日常生活に戻るうえでどんな不安があるのか、それをサポートする

ことはなかなかできません」

そんな思いを胸に秘めた入谷医師は、診断から術後まで長期間にわたって支えられる内科医への転身を決めた。心臓血管外科医として脂がのつてくるのはこれからという時期、キャリアを振り出しに戻すような決断に、同僚や上司からも反対の声は少なくなかったそうだ。

「それでも気持ちにふたをすることはできなかった」と入谷医師。恩師に直

談判し、母校、金沢医科大学病院で内科医として再スタートを切った。

高齢医学科で内科医に 認知症センターを立ち上げ

患者さんを一貫してサポートするために、心臓血管外科医から内科医となった入谷医師。2010年から金沢医科大学病院高齢医学科に勤務し、生活習慣病や脳卒中の予防・治療、ロコモティブシンドロームの対策など、幅広い疾患の診療に携わった。

とりわけ印象深かったのは、認知症センターの立ち上げにかかったことだ。従来、認知症の予防や治療は、高齢医学科だけでなく、神経内科や精神科と複数の診療科にまたがるケースが多かった。その窓口を一つにまとめ、患者さんにとってより分かりやすい体制とし、科の枠組みを超えた総合的な予防・診療に取り組むのが、認知症センターの目的だった。

入谷医師は、認知症の診療で先進的な取り組みを進める医療機関を視察するなど、発足に向けて奔走。ちなみに、このとき、ともに汗をかいたのが、当時金沢医科大学病院で働いていた演さんであり、センター立ち上げを契機と

道内の医療機関で心臓血管外科医として研鑽を重ねていった。

転機となったのは、「国立循環器病センター（現国立循環器病研究センター、大阪府吹田市）」で過ごした2007年からの3年間だ。日本有数の心臓移植実績を誇る医療機関で、入谷医師は最先端の医療にふれた。ときに軽口を交えながら、神業と言われるスピードで次々と難手術をこなしていくスーパードクターの助手を務め、人工心臓の移植手

した縁が現在のいりたに内科へとつながっている。

そして、2017年にスタートした認知症センターで、入谷医師は、「健康」「要介護」の中間に位置するフレイルと、認知機能の関係性を探る研究などに取り組みんだ。「県内の食品メーカーとともに認知症予防に適したお弁当も開発しましたし、一般の方に集まってもらい、演さんと認知症の予防教室も開催しました」と、入谷院長は当時は振り返る。

内科医として、さまざまな角度からアプローチを試みてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって状況は一変する。人と人の接触が制限されるなかで、否応なく地域とのつながりも薄れていった。「コロナ禍が大きな転機となりました。一人の医師として、患者さんと深くかわっていくために、地域に開かれた、かかりつけ医として開業することを決めました」

二刀流の経験とCTで 正確で迅速な診断を

国立循環器病センターなどで腕を磨いた心臓血管外科医時代、認知症や高齢医学など幅広い知見を身につけた金沢医科大学での内科医時代を経て、



mission

家元で 理想を超える家づくり



理想のライフスタイルに 合わせた完璧な住まい

私たちは、お客様一人ひとりのライフスタイルに寄り添い、最適なデザインを提案します。家族の夢、趣味、日常の小さな瞬間までを考慮した、唯一無二の住まいを創り上げます。

人や環境にやさしい 高性能な家づくり

私たちの家は、地球環境に配慮した最新の技術を取り入れています。エネルギー効率の高い設計、再生可能エネルギーの活用、自然素材の選定など、持続可能な未来を見据えた家づくりを実現しています。

技術力の高い職人たちが 支える確かな品質

高い技術力を誇る熟練の職人たちが、細部にまでこだわりを持って施工します。長年の経験と確かな技術で、お客様の期待を超える住まいをお届けします。



お問合せ

詳細な情報やモデルハウスの見学をご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

<https://kanazawaiemoto.jp>

076-255-1201



株式会社家元 石川県金沢市問屋町 1-27-1

【建設業】石川県知事許可（般-1）第 17091 号
【一級建築士事務所】建築設計事務所 意匠庵 / 石川県知事許可 第 13806 号
【宅地建物取引業】Find.r / 石川県知事（1）第 4223 号



美しい人になる
家元の家。

2023年にいりたに内科を開業した今は、入谷院長にとって医師人生の第3章に位置づけられるだろう。地域のかかりつけ医として奮闘する現在、大きな武器となっているのは、「外科」と「内科」それぞれの分野で身につけた知識と技術である。

「大谷翔平選手と同じ、二刀流なんです」と笑う入谷院長。そのたぐいまれなスキルが、地域医療の現場でおいに生かされているという。ある日、体調不良を訴えて来院した人がいた。別のクリニックを受診したけれども、一向によくならないという。詳しく話を聞き、症状を観察するなかで肺がんを患っている可能性に思い至った。また、あるときには、「背中が痛い」と、患者さんがやって来た。もしかしたら、症状が現れた箇所だけに目が向いていたら気づかなかったかもしれない。入谷院長は、診察するなかで大動脈解離の危険があることを見抜いたそうだ。

「外科・内科の経験があったことが、速やかな診断の助けになりました」（入谷院長）

さらに、いりたに内科では、より詳細な診断を行うために、クリニック内にCTを備えている。基幹病院でCTを受けるとなると、待ち時間などを含

HUMAN POWER

Osamu Iritani



めれば検査だけで1日がかかりとなることも珍しくない。クリニックで受診できれば10分ほどで済み、迅速な診断が可能だ。肺がんや大動脈解離を疑った前述のケースでもCT検査を行い、正確な診断を下したうえで、近隣の基幹病院に引き継ぐことができたという。

入谷院長は、日本認知症学会専門医・指導医をはじめ、日本外科学会や日本老年医学会などの専門医資格も取得。高齢社会が加速する現代社会で、来院する患者さんもお年寄りが増えており、医師として積み重ねてきた多岐にわたる専門的なスキルは地域医療の現場でいかに発揮されている。

安心して暮らせる地域へ 医療ドミナントも視野

地域住民の健康を守り、在宅医療にも注力するなど、かかりつけ医として地域医療の世界にとつくりと身を置いて2年がたった。忙しくも充実した毎日を送るなかでも、入谷院長は現状にとどまることはない。新たな構想の実現に向けて既に動き出しており、準備段階として、ドクターが入谷院長一人では限界があったことから、常勤の医師を新たに雇用する予定だ。その先に

見据えるのは、医療ドミナントである。「内科を中心に、泌尿器科や皮膚科、整形外科といったさまざまなクリニックを近隣エリアに立ち上げていければと考えています。そうすれば、いりたに内科だけではカバーできない専門的な診療を、住民の皆さんに提供することができそうです」

そんな未来図を描く入谷院長は、医療機関同士の結び付きの強化にも思いを巡らせている。それは、経営的な視点で見ると、競争相手となる内科クリニックにも向けられている。

「何を言っているんだと思われるかもしれませんが、同じ診療科のクリニックであっても、それぞれの得意分野を生かすことですみ分けることができるはず。地域の皆さんに、よりよい診療を実現するためにも、クリニックがいがみ合うのではなく、情報を共有するなど、ウィンウィンを目指していければと思います」

こう語る入谷院長の目には常に、クリニック近隣の患者さんの姿が映っているのだろう。より安心して暮らせる地域づくりを目的に、かかりつけ医の視点で支えていく。医師人生第4章の幕開けは間近に迫っている。

医療をデザインする株式会社医心

ISHIN

business description

各種印刷

WEB制作

デザイン

企画・編集

取材業務

撮影(写真・動画)、編集作業

出版(雑誌、記念誌など)

セミナー・イベント企画・運営

医療学会の企画・運営

テレビ番組企画・編集・制作

広報コンサルティング業務

医療ブランディング

クリニック開業支援

株式会社 医心

〒920-0213 金沢市大河端町東55番3号 tel: 076-203-6613

email: info@project-ishin.net

<https://project-ishin.net/>



医療を支える。 人と地域の未来のために。

私たちが幸せな人生を歩むために、医療は、必要不可欠です。

しかし、世の中の変化とともに、医療は今、多くの課題を抱えています。

医療人材の採用から育成、キャリア支援、仕組み作りまで

私たち MCS は、HR（ヒューマンリソース）の分野で、医療の課題解決に向き合います。

医療関係者、生活者、地域社会、その未来のために。



「地域」と「医療」の架け橋として ヒューマンリソースの問題をトータルで支援する

スギ薬局グループ



詳しくは WEB へ



令和6年能登半島地震、豪雨災害において、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。

また、被災地における復旧・復興活動などにご尽力されているすべての方々に深く敬意を表します。

Special Thanks

【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局

スギメディカル株式会社

株式会社 DCP ソリューション

株式会社 石川コンピュータ・センター

みづほ工業株式会社

株式会社 ファイネス

ディレクト株式会社

株式会社 アメニティ

株式会社 クオンヘルスケア

丸文通商株式会社

株式会社 福光屋

株式会社 家元

【協賛企業】

料亭 つば甚

株式会社 富士タクシー

株式会社 キョー・エイ、株式会社 兼六、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、

有限会社 ソフト AZ、司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス



『通いたくなる場所』をデザインする

DIRECT 株式会社 /DIRECT 建築設計事務所



医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

金沢大学附属病院	石川県済生会金沢病院	医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
金沢医科大学病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院	医療法人社団博友会 金沢西病院
石川県立中央病院	金沢聖霊総合病院	医療法人社団藤聖会
金沢市立病院	金沢赤十字病院	金沢メディカルステーション ヴィーク
石川県立こころの病院	独立行政法人国立病院機構 医王病院	国家公務員共済組合連合会 北陸病院
加賀市医療センター	独立行政法人国立病院機構 石川病院	小松ソフィア病院
公立河北中央病院	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
公立穴水総合病院	独立行政法人国立病院機構 七尾病院	社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
公立宇出津総合病院	社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター	医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
公立つるぎ病院	医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
公立能登総合病院	医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院	特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
公立羽咋病院	医療法人社団浅ノ川	特定医療法人社団勝木会
公立松任石川中央病院	心臓血管センター金沢循環器病院	やわたメディカルセンター
国民健康保険 小松市民病院	医療法人社団浅ノ川 千木病院	公益社団法人 石川勤労者医療協会
市立輪島病院	医療法人社団光仁会 木島病院	城北病院
珠洲市総合病院	医療法人社団慈豊会 久藤総合病院	医療法人社団博仁会 小池病院
町立富来病院	医療法人社団 下崎整形外科医院	
能美市立病院	医療法人社団橋会 整形外科米澤病院	

富山県

富山大学附属病院
富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
あさひ総合病院
射水市民病院
かみいち総合病院
黒部市民病院
公立南砺中央病院
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
高岡市民病院
市立砺波総合病院
南砺市民病院
公立学校共済組合 北陸中央病院
独立行政法人国立病院機構 富山病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院
独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院
富山県済生会高岡病院
富山県済生会富山病院
富山赤十字病院
医療法人財団恵仁会 藤木病院
医療法人社団秋桜 丸川病院
医療法人社団尽誠会 野村病院
医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
医療法人財団五省会 西能病院
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院

福井県

福井大学医学部附属病院
福井県立病院
市立敦賀病院
独立行政法人国立病院機構 あわら病院
独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
福井県済生会病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院
福井赤十字病院
医療法人福井心臓血圧センター
福井循環器病院
医療法人厚生会 福井厚生病院





私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。

各種、医療機関、クリニックの処方箋応需

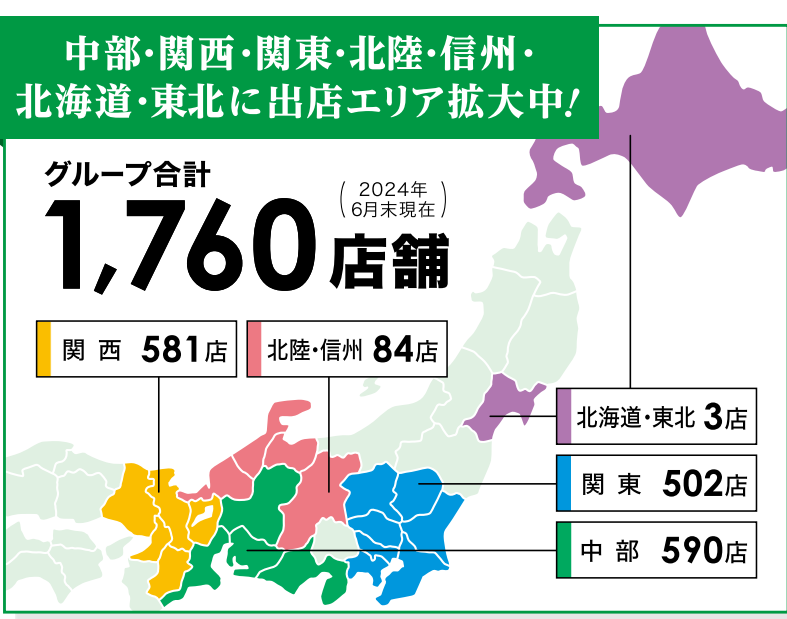
地域の健康維持・増進をサポートする 石川県庁前店

コミュニティスペース

血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします

介護ステーション

初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します



■ 全社売上高 (年間計)	7,444.8 億円	前期比 +11.5%
■ 調剤売上高 (年間計)	1,587.8 億円	前期比 +11.5%
■ 処方箋枚数 (年間計)	1,475.9 万枚	前期比 +14.3%
■ 訪問調剤対応店舗数 (年間計)	601 店舗	前期比 +6.4%
■ 訪問調剤患者数 (年間計)	189,109 名	前期比 +7.4%

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索

〒474-0011 愛知県大府市横根町新江62番地の1 TEL 0562-45-2700